



今月の大槌びと

菅野 祐太さん

(30歳・大槌町教育専門官)

震災後から「大槌びと」となり、コラボスクールで子供たちを指導してきた菅野さん。平成29年4月に、大槌町教育専門官を委嘱されました。

大槌ならではの「学び」を

教育専門官とは、どのようなお仕事ですか？

菅野さん(以下菅) ー現在取り組んでいるのは、「おおつち型教育」を創ろうというプロジェクトです。大槌ならではの学びを地域住民全員で創り、町の中からも外からも魅力を感じられる教育にしたいと考えています。

大槌との関わり、来ることになったきっかけは？

菅 ー震災後の2011年9月に、NPO法人カタリバの一員として大槌に来て、12月からコラボスクールで子供たちを教え始めました。横浜市出身ですが、父の実家が陸前高田市という事もあり、岩手の状況が気になっていたのも理由の一つです。

大槌の印象は？

菅 ー人間的な面では、良い意味でストレートな物言いをするなあ、と。だから一度分かったら仲間として絆で結ばれるというイメージ。

自然との暮らしや津波の経験を、地域みんなでの教育の形に「編みなおす」

菅野さんが思う大槌の魅力は何でしょうか？

菅 ー暮らしを楽しむというか、例えば海沿いの地域で魚やホタテなどを食べたり、「食べる」と「生きる」が、つながっていて、生活環境のすぐ近くにある。そういうつながりは、横浜では一度も感じたことが無かった。素晴らしい事だと思います。

それが、菅野さんの言う「大槌ならではの学び」につながる



ついているんでしょうか？

菅 ーはい。ルーツに持っているものや地域の人達から学ぶ事が魅力的なおおつち型教育につながると思います。自然と関わって暮らししていることや、津波を経験していることはすでに持っているもので、それらを地域のみなさんと一緒に、教育の形に「編みなおす」ことが、私の仕事だと思っています。

大槌びと クロストーク Cross talk

- 4月号 釜石 望鈴さん
- 5月号 菅野 祐太さん

前号と今号の大槌びとが対談する新コーナーです。様々な分野で活躍する大槌びとの皆さんが、誌面の上で出会います。「たし算」ではなく、「かけ算」の絆が、また新たな大槌を創っていきます。

お二人は偶然にも知り合いだったんですね？

菅野さん(以下菅) ーはい。吉里吉里中学校でコラボスクールのやつっていた時、三年生の生徒でした。

「マイプロジェクト」事業の第1期生でもあります。釜石さん(以下釜) ー写真を撮るのが好きで、町民の笑顔の写真を100人録って、本にしました。今のお互いの仕事もご存じですか？

菅 ー生きた証の冊子を見せて頂きました。釜 ー菅野さんはどういう事をしてるんですか？

菅 ーそういえば当時のマイプロジェクトでは、自分のやるうとしてる事が本当に必要なのか、葛藤しながら取り組んでいたよね。そういう机の上だけじゃない学びを創っていく、という仕事かな。

最後に、お二人がそれぞれの分野を生かして一緒に何かするとしてら何をしてみたいですか？

菅 ー大槌の教育の良さが伝わる映像などを釜石さんに作ってほしい。子供達がふるさとでの勉強をしていきいぎしている写真や動画を。釜 ー写真もですけど、動画も好きなので、ぜひやってみてください！

